

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092700097		
法人名	社会福祉法人 豊前東明会		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	豊前市大字三毛門1348番地1		
自己評価作成日	平成27年 3月 2日	評価結果確定日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_kani=TRUE&amp;i_gyosyoCd=4092700097-008PefCd=40&amp;VerSiOnCd=022#titl_e08">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_kani=TRUE&amp;i_gyosyoCd=4092700097-008PefCd=40&amp;VerSiOnCd=022#titl_e08</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成27年3月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

・入居者の笑顔、その人らしさを大切にするという理念を職員全員で理解、共有し、入居者がゆとり、ぬくもりのある穏やかな毎日を送れるよう支援しています。

・生活を行う上で、職員がすべてのお世話をするのではなく、入居者一人一人のペース(体調や状況)に合わせて、在宅での生活と同様に、出来る範囲で日常生活にかかわって頂き、生きがいが持てる様、支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあやめ」は同一法人の運営するケアハウスと隣接した1ユニット型事業所で、豊前近郊において関係施設が複数箇所運営されている。地域や行政の要望に応える形で2年前に開設され、ケアハウスとともに、それぞれの特色を活かして一体的なサービスを提供している。広い敷地にある平屋建てで、各所にイメージカラーでもあるオレンジの暖色が配置され、海に近い環境と合わせてゆとりと柔らかみのある空間を作り上げている。元々地域にも密着しており、桜の季節に敷地を開放したり、夏祭りにも多数訪れ盛況である。入居者と同じ目線に立ったサービスを心がけており、在宅生活の延長として、出来る事を同じペースで出来るように働きかけている。関係法人との交流行事や、情報交換、共有なども積極的に進め、職員研修にも役立っている。今後も地域に開放された事業所としての存在感の発揮が大いに期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域密着型サービスの意義、理念を理解すると共に、互いに共有し入居者がその人らしく生活できるよう、皆で支援している。	「地域の人達と、その人らしさ、笑顔を大切に～」と開設時に施設長が職員の思いを汲んで作った独自理念が掲げられ、特に笑顔を大事にケアに取り組んでいる。朝礼時の唱和も近頃始めて、大きな声を出すことでメリハリをもって業務に取り掛かれるようになった。理念とともに「奉仕の心十か条」も掲示され、実践につなげている。	理念にあげられた項目の実践のために、職員と話し合って具体的な目標設定や行動指針を作成してはどうだろうか。日々のケアの中で意識をもって実践につながる事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(文化祭、福祉フェア等)に参加している。誕生会では地域ボランティアに来て頂く、さらに併設施設との合同行事において、保育園の慰問等も受け入れを行っている。また毎年夏祭りを開催し、地域の方と交流を図っている。	隣接のケアハウスと合同で幼稚園から慰問を受けたり、地域のボランティアの大正琴、歌いなどに来てもらうこともある。公民館や役所での行事には運営の手伝いにも行き、参加や出展もしている。夏祭りも大々的で敷地を開放して地域の方も招き盛況である。法人の構成評議員を通して地域情報ももらい、市政だよりには夏祭りの案内も載せてもらっている。	より地域に開けた事業運営のために、小中学校の職場体験の受入や、自治会交流、会議室など事業所資源の活用、キャラバンメイト活動など、出来る事から取り組まれてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域住民の方と認知症における相互理解に努めている。また文化祭や福祉フェアといった地域行事への参加を行うと共に、入居者主体で掲示物(ちぎり絵等)を作成し、地域文化祭への出品を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催している。その中で参加者である家族、地域代表、市担当、包括支援センター職員に意見、要望、情報を頂き、参考にしながら施設運営に取り組んでいる。	運営推進会議で防災に関して話され、避難場所の提供に関して依頼を協議された。区長、地域代表が参加され、家族代表2名は輪番によって毎回違う方に参加してもらうようにしている。ホールで開催することで入居者も気軽に参加できる。家族の意見から広報誌の写真掲載の要望があり、検討されている。参加者も協力的で意見も多く、地域の話題などもなされている。	入居者も参加しやすいような雰囲気や働きかけで、参加を促してはどうだろうか。また、議事録を公開、閲覧、報告することで、より運営推進会議の取組みが周知されていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、市担当職員に参加頂き、ホームの状況を報告し、意見を求めている。また不明な事項については、その都度市役所に連絡し、教示を受ける。	行政も毎回運営推進会議に参加され、防災協力の件でも連絡を取り合っ一緒に進めている。敬老会の際には市長の訪問もあった。介護申請時には窓口へ訪問し、その際に地域包括にも挨拶に伺っている。夏祭りの案内も行い、何かあった際の連絡や相談もスムーズにされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束の廃止に取り組む努力をしている。居室出入り口は施錠していない為、出て来られる方には職員対応で声掛け、誘導をしている。職員が手薄な時等で、安全が確保出来ない時は、施錠を行っている場合もある。居室以外の各出入り口付近のセンサー音で場所によって変更している。	館内は自由に行き来でき、玄関は夜間のみ施錠し、日中も好きな時に外出できる。現状、徘徊リスクの高い方もおらず、身体拘束の事例もない。拘束に関して会議の中で周知を進めるが、ここ一年で研修までには至らなかった。日頃は職員同士や、管理者から注意指導をしている。	やむを得ない身体拘束行為が発生した際の同意書や、支援経過などの書式の準備や、全般的な拘束行為の理解を進めるための研修の開催などが望まれる。

H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、全体会議やケア会議の中で、職員間における周知の徹底をしている。また日頃から職員同士の声掛け、ケア方法の検討を行う等、サポート体制を築き、虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、全体会議等において、職員間における周知の徹底をしている。	今までに制度の利用はなかったが、会議で伝達されている。隣接ケアハウスでの資料回覧も可能である。研修参加や、内部の勉強会も未実施であるが、必要時には地域包括と協力して対応体制を作っている。	制度に関してのマニュアルやパンフレットの準備がなされることと、研修による制度理解が進められることに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接の中で、疑問点や不安な事について聞くと共に、理解が得られるように丁寧な説明を行っている。また契約時、重要事項等に関する説明も十分に説明し、納得頂いてから署名捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見、要望等を表せる機会を設けている。また苦情相談窓口を設置し、利用者、家族が何でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。	家族は運営推進会議への参加も積極的で面会にもほぼ全員が来ている。支払いを現金払いにすることで訪問機会を作り、その際に意見を聞くことが多い。意見から広報誌の取組も検討されている。請求書送付と一緒に近況をケアマネから報告し、家族も運営に協力的に関わってもらっている。	家族会を敬老会や行事などと同日に開催したり、食事会や懇親会形式で企画することで、横のつながりや円滑なコミュニケーション形成につなげてはどうだろうか。また、個別のおたよりの発行や、アンケート調査等で密な報告、隠れた意見要望の引き出しがなされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議において代表者、管理者を含めた全職員の参加で、お互いに意見を出し合うようにしている。また代表者は職員との面談を定期的に行い、悩みや要望を聞くと共に、意見交換を行い、反映するよう努めている。	全体会議はパート職員含めて全員が参加し、意見も出やすい。職員の意見からスタッフルームに置コーナ―が設けられ、休憩も取りやすくなった。年2回、施設長との面談もあり、日ごろから個別の意見も言いやすい。幹部が参加する管理者会議でも随時話し合わせられ運営改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何でも話せる関係を築き、ゆとりある介護をするため、休日希望も取り入れ、職場環境の充実に努めている。また資格の習得により、手当を付けている。また賞与時、成績率に応じてベースアップを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、年齢や性別の制限は行っていない。また各々の能力に応じた配分を考え、出来ないことについては互いにカバーし合い、スキルアップ出来る様、職員全員で努力している。	30～60歳代までの職員がおり、現場職員には女性が多い。料理の得意な職員が均等に勤務についたり、能力を活かして勤務にあたっている。食事以外にも休憩時間は確保され、スタッフルームも用意されている。シフトもお互いに協力しながら作成している。採用にあたっては本人の人となりを重視して、無資格で採用して、入社後の資格取得を勧めている。	職員のレベルアップや情報共有のために、外部研修への参加や、定期的な内部研修が開かれることが期待される。

H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	普段から入居者に対する人権尊重についての啓発を行っている。また全体会議等において、職員間における周知の徹底をしている。	管理者研修などの参加時には人権に関しての項目なども含めて会議で伝達している。年長者として相手を尊重した言葉かけを心がけ、寄り添った対応ができるように、日頃から注意している。直近では研修の参加はなかった。	事業所としての研修参加や啓発活動がされることが望まれる。人権関連団体を活用した動画教材や資料の貸出などで取組の深まりが期待される。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議の中で職員間講習を実施し、知識や技術等を共有出来る様、努めている。また常に職員間で意見交換ができる環境整備を行い、働きながら互いのスキルアップ、意識統一を図っている。今後は外部講習の参加も行っていく。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に関連グループホームへ研修に行かせて頂いた。また現在も疑問が生じ解決出来ない時は、連絡しアドバイスをもらっている。さらにイベント時に、関連施設の職員と交流を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人と入居前に会い話をする中で、少しでも信頼関係を築く事が出来る様、また本人の要望に対応出来る様、理解する努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、入居に際しての不安や要望などを聞きながら丁寧に話を伺い、家族の求めていることを理解するよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず利用者本人と家族の意向をしっかりと聞き、必要に応じた支援を行えるよう努める。初期アセスメントの段階で、本人にとって自宅や他のサービスが必要であると判断した場合は、そちらを勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を行う上で、出来る事は手伝って頂き、一緒に生活をしているという事を実感して頂いている。また職員は、利用者とコミュニケーションをとる上で、互いに学ぶ機会を作り、支え合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来館時、居室にてゆっくりと話をし、頂くと共に、職員と互いに近況報告(生活状況、受診状況等)をし、情報の共有を図っている。その中で、互いに本人を支えていく関係を築いていける様、努力している。		

H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の意向に合わせて外出、外泊をして頂いている。また家族、友人、知人が面会に来た際には、ゆっくりと過ごして頂く様にしている。	家族の面会は多く、それ以外にも近隣の友人や知人が花や差し入れをもって来訪することもある。入居時には馴染みの大切にしてきた品々を持ちめるようにしてもらっている。外出や外泊などは家族にも協力して実行に移している。もともと近隣に住まわれていた方も多く、ドライブがてらに自宅近郊や馴染みの場所を巡ることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやリハビリ等での時間の共有によって孤立感を無くしている。また常に声掛けを行い、一人にならない様に気を付けている。利用者同士のトラブル時には、その都度職員がフォローを行い、気を配っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した家族に会った時には、その後の様子等近況を伺い、場合に応じて相談、支援を行う。また夏祭り等の施設行事の声掛けを行い、参加して頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における行動、言動、表情の観察を行い、利用者の意向や希望を把握し、そこから可能な限り利用者本位のサービスが提供出来る様、努めている。また家族の意向も反映させた上でサービス提供を行っている。	独自様式のアセスメントがあり、主にケアマネが担当している。情報照会を関係機関から行い、本人、家族からの聞き取り、意向やそれぞれの要望を汲み取っている。認定更新時の情報も照会し、現場からの意見もケース会議によって吸い上げて意向の把握に努めている。	定期的なアセスメントの見直しやセンター方式などの様々なアプローチを検討することで、より即時、実践的なアセスメントがなされることが期待される。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、これまでの生活歴やサービス状況などの情報を収集し、入居後の生活に反映させている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、サマリー、ケア日誌等から入居者の現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議、全体会議開催時、職員で意見交換を行い検討し、現状に即した介護計画を作成している。また状況に応じて家族に連絡し、意向を取り入れている。	カンファレンスが毎月開かれ、全員の情報を共有している。全体でリハビリの目標を設けており、日々の実施状況を確認し、プラン目標もチェック項目に落として確認している。ファイルにプランをまとめることで日頃から目を通せるようにしており、リハビリへの取組は全体で積極的に行っている。	担当者会議に他職種からの意見を取り入れたら、いつ、誰が、どのような内容で照会されたか、などを記録に反映させてはどうだろうか。また日頃のケアプランチェックを、1日の所感や、月の所感も記入できるように変更することで、職員のスキルアップや詳細なモニタリングにつながることも期待したい。

H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録にて、スタッフ間の情報共有を行っている。またその記録等を参考とし、職員間で話し合い、意識統一の基実践、さらにフィードバックを行い、次回の計画見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特徴を活かし、家族との連携により、入居者の心身状況、家族の状況に応じて、職員による通院介助、外出など柔軟な支援が行えるよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭、敬老会といった地域行事に参加している。また併設施設との合同行事では、地域にある保育園等の慰問の受け入れを積極的に行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応での受診が基本となるが、本人や家族の希望を大切に、家族対応が困難な場合は、職員対応にて受診する等、安心して医療が受けられる様、支援している。	併設施設の准看護師と連絡体制をとり、臨機応変に通院などに協力してもらっている。基本的には受診を行い、家族が行けない時は事業所から通院介助している。家族受診の際は情報を提供し、相互に共有している。看護師との連携がとれることで健康相談や管理につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設看護職員との連携により、24時間コール体制を整備し、緊急時における早急な対応をしている。また熱発時や、状態が悪い時等も、その都度看護職員に相談、指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に職員が面会訪問し、様子伺いをすると共に、ケース歴を持参し医療機関との情報共有に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、早期に家族と話し合いの場を持っている。また協力医療機関の医師とも連携を取り、今後の方針を職員全員で共有する。	今までに看取った事例はないが、出来る限りのことに対応していく方針である。現状での受入は難しく、重度化の際には医療機関を紹介して入院してもらっている。看護師とは24時間のオンコール体制がとれており、提携医とも何かあった際は相談が出来るようにされている。	

H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と共に、緊急連絡網の整備等により、急変時に迅速な対応できるようにしている。			
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員と入居者全員で、年2回防災訓練を開催している。また運営推進会議や地域集会時、津波等が発生した場合の避難場所の提供、また災害時における協力体制について連携を深め、防災対策に取り組んでいる。平成27年3月29日には、施設と地域住民、市職員、自衛隊等と合同で災害訓練を実施予定である。	訓練は2回とも消防署の立会があり、隣接のケアハウスと同日に消火訓練含め夜間想定訓練を行っている。運営推進会議での話し合いから地域、行政との合同訓練の計画にもつながった。スプリンクラーや防災設備も完備され、平屋建てのため、どこからでも避難しやすい。	合同訓練が企画され、地域との協力体制が作られており、継続的な地域との力を合わせた災害対策の取組みが期待される。また、避難所としても計画されているとのことで、備蓄物の確保なども行政と相談しながら進められることが望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔で対応すると同時に、入居者の気持ちを尊重した声掛けを心掛けている。また目線を合わせて、傾聴する姿勢を持って接している。言葉かけや対応が好ましくない場合は、職員相互に注意を行っている。日頃からプライバシー、個人情報保護の重要性や大切さについて周知、徹底している。	トイレ介助など過度な露出を避けてプライバシーに配慮した対応を心がけ、呼びかけも愛称ではなくさん付けであることを当たり前のこととして意識している。目線を合わせて話すことで気持ちを尊重し、居室や物品を扱う際にも本人に伺いを立ててからするようにしている。	写真利用などを含めた個人情報利用の同意を得ることが望まれる。また、接遇やマナーなどに関して年間計画に落とし込まれた定期的な学習が進むことにも期待したい。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話する時、入居者が自分の思いを言えるように、ゆっくりと間を取って話す様、心掛けている。言葉の表出が困難な入居者には、表情の観察、また端的な言葉で理解し易い話し方に気を配り、思いをくみ取る様、努力している。			
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が無理強いすること無く、入居者一人一人のペース(体調や状況)に合わせた生活が出来る様、支援の配慮を心掛けている。			
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の希望を取り入れ、職員と一緒に用意する等、支援している。また定期的に移動理容室が来館し、希望者は髪、身嗜みを整えてもらっている。			
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には職員と一緒に配膳、下膳、食器洗いをして頂く。また定期的に、季節に応じた食事を提供し、皆で思い出話をする等、食事時間がより楽しいものとなるようにしている。	メニューや食材はケアハウスの栄養士が管理し、配達されている。調理は入居者とも協力しながら職員が主に行い、一緒に食卓を囲んで和やかに楽しまれている。栄養バランスにも配慮され、行事食、麺類やパン食の提供もある。誕生日には個別ケアで外食に行くこともある。食事の際に感想も聞き取り、全員で調理レクを行うこともあった。		

H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立管理を行っている。また飲んだ水分量は職員が記録すると共に、こまめな補給管理を行っている。本人の体調に合わせ、必要な栄養、水分は取れるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔ケアを行い、清潔保持に留意している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある時以外も、状況に応じて定期的なトイレの声掛け、また介助を行い、気持ちよく排泄出来る様、支援している。	一人ひとり個別の排泄チェックシートが毎日、24時間管理されている。自立した方にはあとから聞き取ってチェックする。便秘の続く方には3日程度で投薬など検討する。歩行状態が良くなり、パットの使用量が減ってリハパンになった方もおり、随時見直しにつなげている。会議でも取り上げ、積極的に負担軽減に向けて試行錯誤している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の管理、食べ物、運動などに気を付け、便秘予防を行っている。また毎日牛乳を提供して、自然排便に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者それぞれが希望する時間、タイミングに気持ちよくゆったりと入浴できるよう、声掛けを行い対応している。また必要に応じて介助を行っている。入居者が入浴を望まない時は、無理強いしないようにしている。	1日おき、概ね午前中に入浴を行っており、特に時間の希望はなく朝風呂を楽しんでもらっている。広い浴室だが、空調付きで、三方向介助できる浴槽によって安全に移乗できる。拒む方にも声掛けを検討し働きかけ、季節の行事浴や好みのシャンプーなどによって入浴を楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けや水分補給などを行い、常に安眠できるよう環境を整えている。また入居者の状況に応じて、昼寝の時間を作る等、対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細については、個人記録にある説明書を参考にして理解、確認に努めている。また不明な点は病院、医師に確認するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、リハビリ体操、家事等を行い、またその中で入居者の興味がある内容を取り入れると共に、個人の能力に合わせた、生きがいや喜びある生活ができる様、支援している。		



H26自己・外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望は少ないが、季節毎の花見や地域イベントの際には、積極的に外出を行っている。また外にあるプランターへの水やりや畑の作物の収穫等、室外に出て皆で楽しめる様、工夫している。誕生日はその月に職員付き添いの下、外出を行っている。	季節折々の花見や地域行事の見物など、月1回程度の外出レクが催されている。日頃も畑の世話や敷地内の散歩などで気軽に外気に触れる機会を持っており、隣接のケアハウスのレクに参加したり、行事に出ることで雨天でも外出することができる。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望により、行事での買い物等でお金の使用支援を心掛けている。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望により携帯を所持して頂いている。また必要に応じて事務所の電話を利用して頂く。年末には年賀はがきを書いて頂いている。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に観葉植物の設置、また廊下に季節感のある花飾りや、イベント時の写真といった掲示物を飾る等、施設全体が明るく居心地良く過ごせるよう工夫している。	ライトブラウンのフローリング張りで、平屋建てで周囲が開けているため、明るい日差しが全体に射し込み、明るく軽やかな雰囲気に満たされている。居室とホールは廊下でわかれ、静養時にはゆったりと休める。入居者はダイニングテーブルやソファで休みながら自分の時間を過ごしていた。窓外には田畑の緑や海風が感じられ、自然が身近にある穏やかな空間である。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテレビ、ソファを設置し、利用者が居やすい空間づくりをしている。			
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、各自馴染みのある物(布団やタンス等)を配置し、本人が落ち着いて過ごせる様、工夫している。	廊下から続きのフローリング張りで、開き戸のため車いすでも余裕をもって入れる。介護ベッドとクローゼットが備え付けられ、収納も広く、持参品も綺麗に収納できる。シンプルな部屋づくりや、テレビやタンスの持ち込み、観葉植物などで賑やかな部屋づくりが楽しまれていた。各部屋からトイレも近く、夜間でも安全に移動ができる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の入り口に様々な色を使用した部屋名を付け、分かり易く区別化を図ると共に、環境面を整え、危険防止に努めている。またトイレや食堂など共用スペースにも目印を付け、利用者に分かる様、工夫している。			